

ようこそ日本へ

2018. 5. 3～8

日本モンゴル障がい児家族交流会報告書



日本モンゴル障がい児交流会

日本サーバス近畿支部

目次

主催者挨拶・・・・・・・・・・日本モンゴル障がい児交流会代表 日本サーバス近畿支部長	Ht	P2
モンゴル側チームリーダー		
Hi		
交流パーティ「再びこんにちは」に寄せられたメッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・元大阪府立茨木養護学校長	Kr	P4
モンゴル国立教育大学名誉博士 花園大学		
Hk		
日本サーバス会長		
Ot		
交流会日々の様子・・・・・・・・・・交流会参加者		P5
役割からの報告・・・・・・・・・・交流会参加者		P11
参加者の感想・・・・・・・・・・交流会参加者		P13
結びに変えて・・・・・・・・日本モンゴル障がい児交流会代表 2018 交流会参加者	Ht	P27



モンゴルの方を迎えて

日本モンゴル障がい児交流会代表

日本サーバス近畿支部長 Ht

5月の連休を中心に行った日本モンゴル障がい児交流会、このきっかけは2015年実施のモンゴルから依頼された障がい児教育研修でした。その時、始めは公費で来日と言う事でしたが、政治をする人が変わり、公費は出なくて私費で来られる事になりました。それで日本滞在中の費用を支援するため、支援金を集めました。必要以上に支援金は集まり、支援した人たちは全てをモンゴルのために使って欲しいと言われました。日本の障がい児・者に対する施策の前進には、障がい者本人やその家族が大きな力を果たしました。モンゴルでも障害児の親たちがいろんな会を作って障がい児・者に対するより良き環境を作るために活動されています。日本モンゴル両国の障がい児・者家族が励まし合って障がい児・者の良き未来を作っていければと願い、2016年はモンゴルで交流キャンプを、今回は日本で交流会を持ちました。今までモンゴルの方たちが日本でステイされるのは日本サーバスの会員宅でした。今回交流会の前後に日本にステイした人は、サーバス会員宅ではなくキャンプ参加障がい児家族宅でした。両国の家族同士はキャンプで知り合い、その後はメール等のやり取りも通じてこんなに関係が深まったのです。この関係は今回の交流で更に深まり、モンゴルの代表 Hi さんが「私たちは ONE BIG FAMILYY です」と言われるまでになりました。

これが実現したのは偏に私たちの活動に支援金をお寄せ下さった多くの方のお力です。研修時の支援金が余らなければ、実現していなかったと思います。本当にありがとうございます。いくら感謝しても感謝しきれません。

同時に感謝したいのは、研修の時以来、ずっと温かく見守り、支援して下さっている方々です。日本モンゴル文化経済交流会会長の Sn 様はモンゴルの人たちのビザ取得に便宜を図って下さっています。Kr 先生、Hk 先生は専門的な相談に乗って下さっています。Nh さんはキャンプ以来、いろいろデザインして下さいます。

今回、パン工房オーナーのサーバス会員、Sy さんが毎日のパンを寄付して下さいました。今日は食パンだったら明日は菓子パン等工夫を凝らして。キャンプに参加した障がい児家族でイタリアンレストランオーナーの Yy さんは、非常に美味しいイタリアンの夕食を材料持ち込みで作って下さいました。日本サーバスの会員は遠く北海道や長野からも参加して下さいました。東本願寺は拝観に特別な便宜を図って下さいました。Ia さんの弟、Kt さんは車で関空からフィンランド学校までモンゴルの方の荷物を運んで下さいました。

最後になりましたが、経済的にあまり豊かでないモンゴルから、高い航空券を購入して、はるばる日本へ来て下さったモンゴルからの参加者には、とてもとても感謝です。

多くの協力が実を結び、今回の交流会が出来た事に対して、言葉に尽くせない感謝の気持ちを込めてこの報告書をお届けします。

皆様、今後とも温かく見守って下さいますように、どうぞ宜しくお願いいたします。

Greetings

The Exchange program between Japan and Mongolia

モンゴル側チームリーダー Hi

It was nice to see you all, here in Japan. As you know, the idea about the exchange program has been shared almost 5 years ago when I met with Ht san first in 2013. She visited with He san and Ks san Mongolia 2014 and accepted the group of Mongolia with your help in 2015, Osaka and Kyoto. Then, the Japanese group with kids, parents and staff visited in Mongolia in 2016. This exchange program was able to conduct as a result of your help and support including the past programs too.

I would like to appreciate to those who support the activities financially, personally and physically. Special thanks is given to Servas Japan and Association of Parents in Osaka those who support the activities for

*giving a chance to children, parents and staff to exchange our values, belief, understanding,

*supporting Servas, Mongolia to learn how Servas works as showing its service, host, hospitality, and team work

Without your support, we were not able to conduct these exchange programs. Thank you for making a **bridge** between Mongolia and Japan, especially, for those children who need special service and education. You are giving a very special care, education and love to them. Your support makes the group of Japan and Mongolia as ONE BIG FAMILY.

We also should thank to the children who involved in the exchange program as Ch, Yyk, Iy, Yc, Ynk, Ni, Ar, Or, Am and Bo. Without them, there is no meaning for adults to conduct exchange. Children, you are kids of the ONE BIG FAMILY.

I am sorry, I can't note all of you, however, definitely, we name below those who were with us not only physically but also spirit, in both Mongolia and Japan.

You are making a GREAT NEW ROAD and BRIDGE between Mongolia and Japan which is WIDE, WHITE and WELCOM /3W/ for children with special needs



交流パーティ「再びこんにちは」に寄せられたメッセージ

元大阪府立茨木養護学校長 Kr 先生

Ht さんに Ch 君の絵を 5 枚見せてもらったのが、すべての始まりです。「自閉症児の絵」だと直感し、その縁で Hi さんと出会いました。5 年前のことです。「とりあえず種を播きましょう」とモンゴルの教育関係者の方々と Ch 君とそこそ両親を日本に来ていただくことにしたのです。その交流の実現に大阪LD児親の会、サーバス近畿支部の方々が、献身的にかかわって下さり、播いた種は芽を出し、苗木に育ちました。2 つの国の間に橋を架けましょうと運動は発展し、その橋を渡って日本からモンゴルへ障害児とその家族、関係者がパオをデザインしたお揃いのシャツを着て訪れました。

苗木はたくさんの方々からの愛情を吸収してぐんぐんと成長し、今日を迎えました。私はもう 84 歳ですので、花が咲き、実を結ぶのを見ることは出来ないかもしれませんが、その日はきっと来ることを信じています。今日は本当に有難うございました。

花園大学 Hk 先生

私は 2005 年、JICA のシニア海外ボランティアとしてモンゴルにいました。モンゴル国立教育大学に赴任して、障がいの理解や指導法のテキストを作りました。その後、モンゴルの方が障がい児教育についての研修に京都に来られた時、そのお世話をして、Hi さんや Ht さんと知り合いました。それからたびたび連絡を取り合って、今日の交流会に繋がりました。日本・モンゴル両国の障がい児家庭の皆さんが手を取り合い、将来あるお子さんが幸せになることを祈っています。これからもよろしくお願いします。

日本サーバス会長 Ot 様

日本モンゴル家族交流会開催
おめでとうございます。新緑の中、湖水を渡る風も大草原を渡る風も同じ風。いろいろな風を体いっぱいになびながら、お互いに交流を深め合い、楽しんでください。この貴重な体験がみなさんの次の飛躍のエネルギーになっていくことを期待しています。交流会のご成功を心からお祈りいたしております。



交流会日々の様子

5月3日（木）

いよいよ交流会初日です。石山駅に降りたって、H ご夫婦・Tsさんと共に Nnさんの車に乗り込みました。明日のイベントの下見をしてフィンランド学校に着くと、A ご夫妻が出迎えて下さいました。のどかなフィンランド学校の地区では、その日はお祭りの日でした。神社は学校に隣接していて、戻ってきた神輿行列を見ることができました。

まずは腹ごしらえをしましょうと、持参の昼食を食べながら、そろそろ関空着かなあと話している時、電話がかかってきました。

それは、最初のフライト（モンゴルからの便）が遅れてソウルでの乗り換えが上手くいかず、当初11時20分に着くはずであったけれど、関空17時着の便になったという思いがけない用件でした。案じながら、各部屋に寝具の配布やドアに名札を貼ったりして、お迎えの準備をしているうちに、Yファミリーが到着しました。再会を喜んでいるうちに、次なる電話が入り、17時の便の到着が遅れていると知らせてきました。やがて、入国のあと荷物をKtさんに預けてこれから宿舎に向かうとの電話がありホッとしたものの、更なるハプニングがおきました。JRが事故にまきこまれてストップしてしまったというのです。一時は大阪で地下鉄に乗り換が必要かという事態でしたが、なんとか運転が再開しました。でも、石山駅に着いたのは最終のバスも発車した後で、車によるピストン運転でやっとモンゴルの一行の長い往路に終止符を打つことが出来ました。本当によくお越し下さいました。カップ麺他で一息つき、明日の予定を聞いて「おやすみなさい」ということで一同各部屋にわかれて眠りにつきました。



Ks

5月4日（金）



Yn

朝食 7:30～8:30

9:26 新免発のバスにて石山駅まで。その後瀬田川クルーズ船。早く着きすぎたので、一本前の 10:25 発の船に変更。クルーズを楽しむ。

南郷にて下船後、弁当を受け取り昼食。コンビニ、スーパーに行き少し買い物をした後、南郷水産センターへ行く。

・雨降り体験 ・鯉の餌やり ・鮎のつかみ取りなどを楽しむ。気温が低く雨が降り出したので帰宿する。

休憩後 6:30 夕食。

5月5日(土)

Ts

参加者 ゲスト4人 モンゴル家族14人

障がい児・家族11人 日本人スタッフ9人

計38人

AM 参加者全員による共同制作(集合写真参照)

鯉のぼり制作

(2年前はモンゴルの草原を駆ける馬を制作)

昼食 手作り料理 「ポーズ」

モンゴルのソウルフード 蒸し餃子みたいで味付けはお塩だけ

PM 交流パーティ「再びこんにちは」

ゲストをお迎えして、お祝いの言葉

お互いの国の歌や踊りで再び逢えた喜び・エール交換

ティータイム

ゲーム大会

夕食 イタリアンレストラン「オステリア ニンナナンナ」のオーナーシェフによるディナー

メニュー 子羊のイタリアン・ローストチキンサラダ・3種類のスパゲティ

交流3日目でやっとゆっくり8時半から朝ごはんを済ませ 本日参加のおたふくの会メンバーの到着を待ちながら、共同制作準備や歓迎グッズ(鯉のぼりの旗・兜を作って頭にかぶる)を保護者で制作 子供たちはフリータイム。



おたふくの会のメンバー到着 全員で鯉のぼりの鱗の絵を描いて貼り付け大きな2匹の鯉のぼりができました。

お昼になったのですが、「ポーズ」の手作り料理に時間がかかってしまいましたが、お腹の空き加減と味も最高の仕上がりでした、とっても美味しかったです。

「再びこんにちは」ではお祝いのメッセージを頂きモンゴルは民族衣装で歌や踊り、日本はいいのぼり他 5 月の歌メドレーを披露 最後に参加者全員で「幸せなら手をたたこう」を合唱（振り付けはモンゴル調、口笛と指パッチンあり）で気持ちは一つになりました。

ゲーム大会ビンゴ。 全員参加「ビンゴ」と大きな声で歓声。 沢山の景品の中から自分好みを沢山ゲット出来（親）満足そうでした。盛り上がりました。

夕食は本格イタリアンで最高でした、大人は大好きなお酒（ワインとモンゴルの水ウオッカ）で盛り上がりました。ほろ酔い気分の余韻のまま、子供たちがいるので今夜はぼちぼちお開き、（明日は朝早いし、バスに乗り遅れたらえらいこっちゃ）お休みなさい。

明日からプール・買い物等楽しんで下さい。



5月6日（日）

Kn

8時にみんな揃っての朝食。温野菜サラダ、Syさん提供の美味しいパン（食パン、各種菓子パン）にソーセージ。その上昨晚の美味しいパスタも食卓にのり、思わず頬の緩む一同。モンゴルの子供たちも親御さんも美味しそうにパクパク。



今日は総勢20名、9時に玄関前に集合し、歩いて近隣のバス停へ、道の両側の家の庭にはつつじ、紫蘭、おだまきが花盛り。水を張った田んぼがすがすがしい風情です。バスは間もなくやって来ました。各自整理券を取って乗車。子供たちも嬉しそうに券を取り、握りしめる。車内では外の景色を眺めたり、お話したり、お行儀良く過ごせました。あっという間の20分程でJR石山駅到着。膳所（ぜぜ）駅迄1駅JRに乗車。Htさんは回数券と単券を上手に買い分けて大忙し。ここでも各自乗車券を手で自動改札機に入れる。ちょっと緊張しながらも、券が改札機を潜り抜けて出てくるとにっこり。膳所駅で降りると目的の「におの浜ふれあいスポーツセンター」目指して歩く。賑やかな通りをいくつかの信号を通過して、安全第一に進行。スポーツセンター到着。入口のロビーで一休み。申し込んだ時間が来て、一同スイミングプールへ向かう。

プールでもハンディキャップを持つ外国人児童の入場は初めてとかで、親切に一生懸命対応してくれる。いよいよプールへ、初めから喜んで水に入る人、尻込みする人、様々です。決められた初心者用のレーンから違うレーンに入ってしまう元気な子供も



いて、目が離せません。At 氏や He 氏が一時の油断も無く目を光らせます。その内素敵なデザインの水着に着替えたモンゴルのお母さん達も登場。お母さん達は始め自分の子供の面倒を見ていたが、その内自分が水を楽しむようになり、子供そっちのけ。日本人スタッフが懸命に子供たちを見守ることになりました。無事にプール遊びを終了出来、モンゴルのお母さんのストレス解消も出来、実に楽しい体験でした。

日本人スタッフ数名はその間、お弁当を取りにスーパーへ。プールを終えお腹を空かした一同は琵琶湖畔でお昼を食べました。お肉好きなモンゴルの皆さん好みのカツ弁当を一同ぺろりと平らげました。湖畔の風が心地良かったです。

帰りは膳所駅まで歩き、JR で石山駅下車。駅近くの「平和堂」スーパーでお買い物。モンゴルのお母さん達の買い物は衣類中心でいくら時間があっても足りません。楽しそうに



買い物をしていました。集合時間に戻らない人を探したり、大忙しで駅前からバスに乗り帰路に着きました。バス停から10分ほど歩くとすっかりお腹が空き、カレーの香りも嬉しく、温サラダやフルーツ迄ついた美味しい夕食が実に美味しかったです。

夜のファッションショー：今日買った洋服を着て Ni と To さんが演技力豊かにファッションショーをして見せてくれました。夜の更けるのも忘れて大笑いし、一緒に踊りました。

5月7日（月）

Wa

東本願寺参拝、生憎の雨 時々本降り。11時、モンゴルの方全員 S さんにお借りした傘のお陰でぬれずに東本願寺大門に到着。21名の予定、At さんが期待していたのに残念ながらご都合で欠席。

まず大門に昇る。長い間修復等の為、拝観出来なかった所。幸運にも師友のアドバイスで拝観が叶う。諸殿は重要文化財などがある。ことに大門の須弥壇は目の前にあり、仏像に触れられるほど近いので、誰よりも Hi さんが Uu 君を心配して二人で下に残ると言い出す。それでは通訳が無くなるので同行をお願いします。天守閣に登るような急な階段を上がる。雨に濡れて美しい新緑の下京一带を見下ろす相当の



高さ、先ず皆さん一斉にカメラいやスマホに収める。回廊を一巡りして堂内へ。お釈迦さまを中尊に弥勒菩薩と阿難尊者を両脇侍にされた釈迦三尊に間近に迎えらる。厳粛さのお蔭か心配した Uu 君はじっとおとなしい。Hi さんも驚いた様子で参拝案内



の僧侶の説明を通訳して下さる。阿難尊者の写真は以前に見たことがあったが、実際の美しさに瞠目。

次に本堂である阿弥陀堂から親鸞聖人の御木像を安置する御影堂へ。両堂の渡り廊下の毛綱と大櫓も見学。いよいよ奥に進み苔庭に建つ能舞台と白書院へ。案内の日本語を通訳して頂く時間と共に熱心な質問が相次ぎ、予定通りの諸殿拝観の途中で食事時間になる。Ksさんのお世話でお肉もご飯もたっぷりのお弁当を雨の中運んで下さる。白書院は平生儀式や大きな行事の折に用いられる広間、今回のように私的なグループが持ち込みのお弁当を使うのは特例、汚しては大変とごみ袋や濡れ雑巾などを準備しましたが、Uu 君もずっとお行儀よくてそれらが不要になったのは嬉しい事でした。赤い毛氈とテーブルが用意されましたが、モンゴルの方々には座る習慣がないそうでお気の毒でした。それでも皆さんなんとかクリアされて小降りになったのを幸いにイオンモールへショッピングに向かいました。



とおりのいっぺんの観光案内でなく、Hi さんの熱心な通訳と真剣な質問のお陰で内容豊かなひと時となり有難い事でした。

5月8日（火）

He



今日は大津市フィンランド学校で行われたモンゴルとの合宿交流会の最終日です。この6日間でモンゴル風の角が取れ、日本風に馴染んできました。学校内や外出時の団体行動にも進歩が見られました。ただ、旅先の事で止むを得ませんが、ショッピングに対する欲求は日増しに強くなっているようです。

昨夜来の雨は止みましたが、どんよりとした曇り空には気が重くなります。

今日の訪問先は京都梅小路公園内の水族館、天気予報を信じて傘なしで出かける事になりました。夜行バスで友人に会いに行く Uy さん、Ia さん宅に泊まる Hi さん、En さん、Uu 君のほかに、学校に戻るはずの人がスーツケースを持っている。何故かと聞くと買った物を入れるのだと言う。八条口ではロッカーにスーツケースとザックを工夫して詰め込み、八条通を西に向かいます。

水族館に到着すると人気の高いイルカショーの始まる時刻が迫っており、座席がないのではと言う説明がある。それ行けと会場に着くと親切な案内嬢が障がい者席に案内してくれる。すでに上宮高校？の生徒が座っている。生徒の自由意志か先生の指示か席を空けてくれ、我々全員が座ることが出来ました。少し、正面からは外れているが、十分楽しめたのではないかと思います。イルカショーの後は館内を逆まわりにアシカやオットセイの水槽、ペ

ンギンの餌付け、魚の巨大水槽と巡り、意外と人気のあったのはクラゲのようでした。出口近くのプリクラの機械の所へ来ると、子供たち全員が大人も巻き込んで、食事の時間も忘れてプリクラを始めました。出来上がりの写真を見せ、活き活きとした表情が印象的でした。水族館出口の売店で弁当を受け取り、梅小路公園の東屋に向かいます。ハンバーグ弁当でたけのこ飯。ビールがないのが残念です。子供たちは元気に走り回っていますが、少し、雨模様で芝生の上には家族連れは見当たりません。

往きと同じ道を戻りモンゴルの人々の希望でイオンモールに向かいます。前回の買い物時間は1時間半、今回は2時間半と延長要求が出ます。今回は食品とお菓、チョコレートが多く、サントリーの角瓶の大もあります。目薬は老いた両親のため、日本の物は品質が良く、モンゴルで買うより安いそうです。子供たちは買い物の見張りですが、わりとおとなしくしているようです。



小雨の中を学校に戻ると Ak さん、Km さんの心尽くしの夕食が出来ています。今日のメインは焼きうどんです。食後、モンゴルの方から、子供たちからもモンゴル土産を贈られました。もちろんその中にはモンゴルの水(ウオッカ・チンギス)も入っていました。

5月9日(水)

Ks

前回のモンゴルでは日本人だけの日もあったけれど、今回は長い間共に出来ておりましたが、もうお別れの日が来てしまいました。朝一番のバスでの出発なので朝食はパンを昨夜渡して、早朝の短い時間のみが最終日のスケジュールでした。3回あった買い物で沢山購入された品も上手く荷造りして全員集合しました。用事があって同じバスで帰宅の He さんと共に出発しました。留守番役の Km さんを残して Ht さん、A ご夫妻、Ks はバス停まで見送りました。名残を惜しんでいざさらば。大きな荷物でしたが、他の乗客があまり多くなさそうで幸いでした。宿舎に戻って朝食をとりました。ずーっと差し入れて下さった S さんのパンともいざさらば、いつもより味わって食べまし



た。モンゴルの方が石山駅から乗車されたとの電話があつて、終わったなあという思いがしました。後は片付けのみ。十分注意したつもりでしたが、忘れ物が見つかりました。

フィンランド学校持ち主の方が使った部屋の点検をされ OK が出ました。支払いを済ませて全て終了しました。

とんだ幕開けでしたが、無事幕をおろせて何よりうれしい瞬間でした。

役割からの報告

献立・調理担当「キッチンから見た交流会」

Ak

モンゴル交流会では、キッチン担当に任されました。約 20～30 人を超える食事当番である。私は、ネットで調べたり、知り合いに聞いたり、試作品を作ったりしてメニューを考えました。

フィンランド学校のキッチンは、充実していて使いやすく助かりました。

滋賀県在住の S さんに、食材一般の購入をお願いしました。期待を上回る食材を持って来て下さいました。それを見て、みんなでメニューを考えていきました。一日目の夜は、到着便の遅れから、日本人スタッフのみの食事になりました。手分けしての夕食作りを始めました。22 時過ぎに着いたモンゴルのみなさんには、ラー麺体操用に用意したカップ麺で遅い夕食が始まりました。

二日目から、Km さん、Wa さんにもキッチン担当に加わってもらいました。Yy さんが、たくさんあったパプリカにじゃがいもの詰め物を作って下さいました。ガスオーブンの使い方を教わり、暖かいトーストも作れました。朝食は、パン・野菜サラダ・果物（みかん、キウイ）・野菜スープにしました。前日の食材を違うメニューに変化させていきました。電子レンジも使い方が分からず困りました。

Yy さんには三種のスパゲッティ・羊のロースイタリヤ風・ローストチキンのサラダを作っていただきました。お世話になりました。

モンゴルのみなさんは、賑やかにボウズを強力粉から生地を作り、合いびき肉と玉ねぎのみじん切りを合わせて、蒸しあげて作って下さいました。美味しくいただきました。

毎日、人数をチェックし、メニューを調整しながらでしたが、スタッフの皆さんの協力で、無事終えることができて、ほっとしました。

引率担当「買い物風景」

At

着いた翌日の 4 日（金）、南郷での昼食後、何人かが日用品で買いたい物があるので店に連れて行ってほしいと頼まれました。近くのフレンドマートまで歩いて連れて行きました。初め、何人かだけが買い物をしたいと言っていたはずが、全員が買い物に行っていました。日用品だけでなく、ビールも買っていました。

6 日（日）は、プールで楽しんで昼食を食べた後、琵琶湖を散策しようと誘いましたが、それよりすぐ買い物に行きたいというので、石山の平和堂に行きました。帰りのバスの時刻ぎりぎりまで買い物をしていました。寿司を買ってモンゴルのメンバーだけで食べたようです。

7 日（月）と 8 日（火）の 2 日間も、京都駅南のイオンモール KYOTO に買い物に連れて行きました。2 日目は買い物をもっと長い時間したい、夕食も自分たちで食べてもいいというので、日本の我々は先に帰って、モンゴル人は帰りの切符を渡すから好きなだけ買い物をし

てから自分たちでフィンランド学校に帰ってきたらどうかと提案しました。前日と同じルートで、石山駅からバスに乗ったらいいだけなので簡単だから大丈夫だと言いました。彼らだけでだいぶ相談していました。あれだけ買い物を長い時間したいと言っていたのに、自分たちで帰るのが不安になったのか、元通りに一緒に帰ることになりました。自由時間をもらえて、自由に買い物ができると大喜びした彼らに拍子抜けでした。

親たちが買い物に必死になっている間、私は買った品物の番を頼まれていました。その間、3人の子供たちが、割とおとなしく、同じ場所で長時間待っていたのには大いに驚きました。

私たちの愛唱歌

幸せなら手をたたこう

幸せなら手をたたこう

幸せなら手をたたこう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんなで手をたたこう

幸せなら足ならそう

幸せなら足ならそう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんなで足ならそう

幸せなら肩たたこう

幸せなら肩たたこう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんな肩たたこう

幸せならほっぺたたこう

幸せならほっぺたたこう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんなでほっぺたたこう

幸せならウインクしよう

幸せならウインクしよう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんなでウインクしよう

幸せなら指ならそう

幸せなら指ならそう

幸せなら態度でしめそうよ

ほらみんな指ならそう

アメリカ民謡

きむらりひと訳

参加者の感想

Hi, Group leader

All, thank very, very, very much and come Mongolia again, again and again. We, all will be waiting for you as ONE BIG FAMILY.

Name	Note
Ht	Leader is called as 'Great Mom' with Big responsible
He	You are called as a 'Great Dad' who is an assistant to the Leader
Ks	You are a 'Great Sister' with an enormous help always for us
Sy	You are well known by 'the most delicious pan' and 'the sweetest
Ss	home with love'. 'Great family with a lot of LOVE as a Model'
Wa	You are called as 'the most educated and gentle mom' and same time as a great daughter of the GOD' Buddha is so close to Mongolians as like you with your warm heart
At	You are 'Safety teacher with freedom' which is amazing
Ak	You are the key person to make a wonderful Team You are 'Great communication teacher' for me
Kn	A special guest who makes us happy. Your belief to Mongolia makes us more comfortable and friendly.
Km	Children call you 'ichiban kawaii mom' who looks nice not only outside but also inside.
Nn	Young Servas member with great husband makes the program more meaningful and interesting.
Ea	Hokkaido Dad and Mom. We feel that You are already a part of our
Ee	program in having relation with both Mongolia and Servas. Kids enjoyed playing a table tennis with Hokkaido Mom. Welcome to Mongolia.
Kr	'Great Grandma' who built the Road for the future. As you see, your road became a bridge between Mongolia and Japan.
Hk	Great Dad in professional who supported special needs education Mongolia
Nh	You are Great Designer who is Bright(akarui), Colorful and Professional. Your feeling(performance) makes everyone to be One big family.
Ts	Parents respect you as 'professional expert with working experiences

	and warm heart' . You are great professional support.
Ia Iy	You are 'Great Wow school-supporter- leader-mom. You are a model Mom-school-supporter. You look like a 'Great scholar' , you will be a Big Man. Please write a book about you and your mom in the future.
Yc	You look like a 'Beautiful lady with a lot of mysterious talents
Y' s family	'Great Family' . Yyk, you are the most important man who makes the program more meaningful. Ynk, you are the talented man with great success. Yn san and Yy san - very much respected and loved 'Model parents' for Mongolians.
Im Ik	You are a model of Business Mom for others. You are very beautiful and nice lady. Thank you for coming and spending time with us.
Hy Hw	You look like a 'Great calm mom' Thank you for wearing Mongolian deel. Please come Mongolia with your beautiful daughter.

V. Ga, Or' s father, Chairperson of DSAM

My trip to Japan was the first family trip. I ever made time for my son before. As a father, I am very happy to make one family through meeting with parents, staff and Servas members together. On the other hand, the further relationship needs to be strengthened, not only from the parent's point of view, but also from the Mongolian Down Syndrome Association in area of professional physicians, psychologists and researchers, to know more about special schools, employment, independent living centers through meeting with parents who work with these organizations. I also returned to Mongolia with new ideas, how to share what I learned in Japan with other parents, how to make Japanese people understand unique of Mongolia.

Bu, Ni' s mother

I went to Japan for the exchange program with my daughter Ni and learned a lot about new things. Both Mongolian and Japanese group consist of the people those who are warm hearted, hardworking and energetic. A unique of the program was the parents went with their children together. It was a great experience for children to open their mind and feelings. I think this program was fruitful as everyone is learning from each other. Finally, I appreciate very much with Japanese people' s spirit and warm heart for our children; you give us a very

special gift. Please come Mongolia again and again.

Ba, Am' s mom

The trip which I participated with my son Ba.Am was wonderful as meeting with amazing people and visiting exciting places. I was very impressed by Japanese people' s characteristics such as responsible, strict and hospitality. I learned the principal 'Team, Time and Garbage' and saw it everywhere.

- 4, May, it was fascinating to take a cruiser with our children and observe the surrounding nature
- 5, May, we both Japanese and Mongolian team celebrated together 'Children' s day' having a lot of fun such as greetings, wearing traditional costume such as kimono and deel and of course 'Bingo' . Meal was so special and delicious. It was the funniest and exciting day with many Japanese people, especially children.
- 6, May, I have never thought to go swimming pool with my son in Japan, a far away from Mongolia. Everyone enjoyed spending time in the pool.
- 7, May, we visited the biggest temple in west area of Japan. It was great pleasure that we had a special service and explanation from the temple. The lunch time was exciting because of eating in Japanese way by sitting in tatami in a big and nice special room.
- 8, May, that day was exciting to visit Aquarium. Children were so happy to watch 'Dolphin' s performance' , various types of fish, penguin, etc. Parents and staff were so happy to see when children are happy.

However, we expected to meet with children with down syndrome and their families. If shopping time was a bit longer such as 3 hours, then it must be perfect.

Finally, thank you so much for everyone who organized, supported and sponsored the exchange program to provide us, especially for children the great chance to open the door in their future. We and children would never forget this amazing and exciting trip.

We are waiting for you in Mongolia. Let's continue our friendship for our children.

Uy, supporting staff to DSAM

Hello everyone. I had a great chance spending time with Or, who is my nephew for 1 week. My understanding and knowledge about children with disability has been

increased. They understand everything in very deep and they are very sensitive and have their own talent and hobbies. Their parents are great who are very patient. I love the children. My eyes had tears when Ynk kun gave a speech. I could see even now Yk kun with tears in his eyes when they left the camp. I could see the children with happiness as a result of the camp done by Japanese people. You are great those who dedicate your heart for others.

En

みなさんこんにちは元気ですか。En です。私は日本の印象は本当に楽しかった、嬉しかった。料理はおいしいそう、ショッピング、アクアリウム 楽しかったですね。大阪 京都 綺麗ね。また早く日本行きたい、みなさんありがとうございました。

Uu, 8 years old (Hi' s son)

The trip was exciting and fun for me. Ice cream, juice and chocolate were very delicious. I enjoyed very much aquarium, swimming pool, boat trip and other games in Children' s day. Ynk brother, Iy brother and Am brother thank you for playing with me. Sisters and brothers, thank you for taking care of me. My mom and sister got angry with me sometimes, maybe I did something wrong. I brought chocolate for my friends and key holders for special 5 friends. After coming back I made a photo album about my trip. I will present it at the school next week. Let' s play games when you came Mongolia.

モンゴル交流会に参加して

At & Ak

前回、モンゴルに行ってお世話にもなったので、出来る事をしようと思い、二人で参加しました。知り合いに、このような活動をしているのと説明し、支援金をお願いしました。

準備の段階から、日本側のみんなで考えた計画がモンゴル側の都合でどんどん変わっていきました。これも文化の違いなのか！と、半ば諦めました。子供たちとの交流のためと思い、柔軟に考えていく事にしました。

初日から、モンゴル上空の天候の状態が悪く、ソウル乗継が出来なくなり、飛行機の関空着が予定より遅くなりました。JR 移動中でもトラブルにあい、フィンランド学校に着いたのは、遅くになってでした。部屋割り・夕食と慌ただしく準備と片付けをしました。

朝食は、出かける時間に合わせての準備になりました。みなさん慣れてこられると時間に余裕が出来てきました。

キッチン担当で毎日学校に残りました。お昼は、みんなが使うトイレ・廊下・手洗い

場・ホールの掃除とごみを分別回収しました。手洗い用のタオル・布巾の洗濯、キッチンの排水溝の流れがスムーズに行くよう掃除もしました。タオルを取り入れる時に、私は、小さい虫？に指を刺され、痛みと腫れてきたため、Waさんの知り合いの病院に連れて行ってもらいました。すぐに対応していただいたため、夕食の準備には間に合いましたが、Kmさんには心配をおかけしました。

毎回、夕食のメニューの見直しと人数チェック！これがとても厄介な作業でした。「お米何合炊くの？」「カレーライスの量は？」「ちょっと待って！」「これでいって下さい！」「サラダお願い」って、感じでした。(Ak)

行事の引率をしながら、子供たちをサポートしました。スーパーでは、日本語でしか書いていない物が多くあり、買い物に困っていたようです。しかし、しっかりとスーツケースの中におさまっていました。団体行動も最終日のバスに乗るのも、スムーズによく動いていました。JR石山駅からの「はるか」に乗り、関空からモンゴルに帰られて、ホッとしています。Hiさんからお礼のメールが届いていました。(At)

久しぶりのモンゴルの方々との交流で…

Ia

5日の交流会に、息子と一緒に参加しました。おたふく会の母娘3組にもボランティアに加わってもらい、とても楽しい時間を一緒に過ごす事が出来ました。共同制作・ゲーム・互いの発表等々のプログラムがあり、大満足の日でした。この日の準備を少しお手伝いしたのですが、モンゴルの子供達に楽しんでもらえたのではないかと、今も嬉しく思います。半年前からせつせと作っていた金魚のちりめん細工も、日本のお土産にしてもらえて良かったです(*^_^*)

今回、交流プログラムとは別に、先に来日しY家に宿泊されていたHiさんご一家に、2日と8日の晩に我が家でも泊まっていただきました。2日は、肉好きでモンゴル料理好きの息子のリクエストでモンゴル料理店で食事をしました。店の女将とHiさんの再会にビックリしたり、食事のほかにモンゴルのパズルやいろいろな本を見せていただいたりと、大喜びでした♪8日は翌日が4時起床のため、早々に晩ご飯と就寝となりましたが、大変短い時間ながらもHiさんとお話が出来、モンゴルでの障がい児者に対する偏見に対して大変尽力されていることを感じ、とても有意義な時間でした。

北海道から

Ea & Ee

Nさんの所へホームステイ出来、本当に良かったです。ご夫婦とも良い方で、旧知の友人に会ったような感じでした。お二人とも弓道の経験があるので、尚更、親近感がわきました。良い方を紹介して戴き本当にありがとうございました。

モンゴル家族との夕食会は楽しいものでした。お母さんたちに会えたのは良かったです。我が家にもモンゴルの留学生を受け入れた事があります。

Hさんたちの活動に大変感動しました。資金力と活動力、活動エネルギーにびっくりしま

した。

私たちはニセコに住んでいた時に、障がい児のいる家族が固まって住んでいる「ニセコ生活の家」に少し関わっていましたので、私たちはダウン症や知的障がい者については理解があると思います。

札幌へ来る機会がありましたら、是非自宅へお泊り下さい。

キッチンカウンターの中から

Km

今回のキャンプでは調理のお手伝いという役割での参加で、殆どの時間をキッチンで過ごしました。山ほどのジャガイモ、玉ねぎ、にんじんと格闘の日々でしたが、窓からは麦畑の美しい緑が広がり、Ak さんのご指導のもと、とても気持ちよくお仕事を楽しんだ数日間でした。一方、お料理の内容も量も???ばかりで、皆さんの表情で不安になったり安堵したりの連続でしたが。

参加の皆さんと行動をご一緒する機会は少なかったのですが、カウンターの中にいると、プログラムを終え食堂に入って来られた表情で、「あ～楽しかったのだな～」とか「ちょっと疲れたのかな」などが伝わってきました。朝もキッチン内から「おはよう～」と声をかけた時の様子で、「あれ？寝不足？」とか「お腹空いてるな！」など言葉にない状態をキャッチ。どの席に座りどのように食べて下さっているかも、とてもよく見えましたので、食後に風邪気味のお母さんにそっと「気を付けてね」と声掛けなども出来ました。個々の様子ばかりではなく、全体の雰囲気も良くわかり、日増しに皆さんの表情が生き生きと豊かになってくるのが感じられ、とても嬉しいでした。

そんな私達に、食後にカウンターからキッチンを覗き込むようにして、OKサインをして下さったり、少し遅れて食卓に着く私たちに「お疲れ様。これも、たくさん食べて！」というように、お料理のお皿を回して下さる心遣いなど、暖かな心をいっぱい頂きました。

モンゴルの皆様、日本の皆様、本当に良い交流体験をさせていただきありがとうございました。

モンゴルの親戚と再会

Kn

以前からモンゴルとの交流のお話を聞いており、またサーバス東海北陸支部の方がモンゴルキャンプに参加して、その感想を伺っていました。是非参加したいとお願いしたまでは良かったのですが、その後右手首の骨にひびが入るというアクシデントがあり、参加を一時躊躇しました。参加したい気持ちには変わりはないのですが、皆様にご迷惑をかけるだけで、お役に立てないと思ったからです。しかし「ギブスも素敵なアクセサリー」との温かいお言葉に甘えて参加させていただきました。

2016 年秋にモンゴルから若い夫妻が我が家に 5 日間滞在しました。東京の六本木で開かれた「世界若者経済フォーラム」に参加した後のサーバス旅行で、長野の我が家に来てくれました。実に魅力的なお 2 人でした。その後 2017 年 7 月に私達夫婦 2 人でモンゴルを訪ね

ました。彼らの家族と数日を過ごしました。今回参加した彼らの長男や妹 2 人とも自然の中で遊びました。何より長男を身近で見守っている祖母（夫の母）は私と同じ年で、心が通じました。モンゴル交流のリーダーである Hi さんや姪御さんにも大変お世話になりました。その後彼らの友人が働く旅行会社に委託して、通訳とドライバーさんを手配してもらい、ゴビ砂漠を 1 週間彷徨いました。ウランバートルに戻ってきた私たちを 6 人の若きサーバスメンバーが迎えてくれ、食事を共にしました。

そんな訳で親戚のように感じる人たちと再会出来、幸せな時間でした。その上、また多くの親子の皆さんと出会え、その明るさに感動し、モンゴルの親戚が増えた感じです。サーバス関係だけでなく、日本人スタッフの皆さんと出会え、障がい児教育の問題を教えて頂いたり、接し方を身近で見て感じる事が出来ました。心が温たまる時間でした。皆様ありがとうございました。

印象に残った事

Ks

プールでの出来事です。他のメンバーが水に入っているのにプールサイドで座り込んでいる少年が一人いました。動こうとしなくて、ちょっと触れただけで後ずさりしてしまいました。そこで横に座ってみんなの様子を眺めることにしました。勿論私はモンゴル語が出来るわけではないので、日本語で話しかけました。ひとしきりしゃべった後で「ちょっと入ってみようか？」と言ってプールに入ると、彼もそろりそろりと入ってきました。歩こうと言って手を繋ぐと歩き出しました。周りの仲間の声援を受けて 25m 歩きました。着いたとたんプールサイドに上がって座り込んだので、また一緒に座り、振り出しに戻りました。25m を後 2 回歩いた所でお母さんにバトンタッチしました。他の事に関わってふと気がつくと、彼がビート板を持って一人で歩いているではありませんか。それもターンを繰り返して歩き続けていました。気のせいかな、嬉しそうな顔に見えました。そして、翌日、本願寺への移動中、私は意識的にではありませんが、その親子の斜め前を歩いていました。すると彼が近づいてきて腕を絡めてきたので、お母さんと 3 人横並びで腕を組んで歩きました。それが一番印象に残っています。

昔から「同じ釜の飯を食った仲」といいますが、同じ水に浸かった仲という事もあるようで、彼だけでなくプールに入った方々とはぐっと距離が近づいた気がしました。

この後着付けをした時や買い物に同行し商品の説明をした時も、その前と後では違いがありました。一対一で向き合う事は交流の第一歩なのでしょう。

今後いろんな場面でこの事を心に留めて行動していきたいと思います。

Ch 君がご縁で

Ss

モンゴルの方が日本に研修に来られた時、Ch 君とそこのお両親を我が家でお世話したのがモンゴルとのお付き合いの始まりでした。今回、とても楽しみにしていましたが、残念な事に体調を崩して、殆ど参加出来ずでした。食材の買い物や毎日のパンのお世話をしたので、

ちょっと体調が戻った時には主人と一緒にフィンランド学校へ行きました。そんな私たちを見かけて、モンゴルの方が「ぜひ談話室に来て下さい」と言われました。行くと次から次へとプレゼントの山、歌や踊りもいっぱい披露して下さい、すごい歓迎を受けました。Ch君が日本へ来てからとっても明るくなったと言う事で、まるでヒーローのように扱ってもらいました。プールもみんなと一緒にいこうと楽しみにしていたのに、とてもとても残念です。でも皆さんの笑顔に出会えてとても嬉しいでした。

日本モンゴル交流会に参加して 2018.5.3～5.7)

Ts

- 1 回目の参加は職場の業務として調整「見学者の案内」で参加 (2015 年)
- 2 回目、上記が縁で「夢叶う」旅行で行ってみたい国 旅行気分で参加 (2016 年)
- 3 回目、日本に招く、企画スタッフとして参加 (今回)
- 3 回ともとても楽しく参加させていただきました。

しかし今回 (3 回目) は個人的に反省が多かったです。交流目的の「障がい児との交流」についてダウン症親の会メンバーが 4 家族も参加して下さいなのに、ダウン症に対する交流企画を考えていませんでした。3 月 21 日は国連で制定された「世界ダウン症の日」、21 番目の染色体が 3 本ある事で 3 月 21 日に決められました。ダウン症の赤ちゃんはどの国でも 800 人～1000 人に一人の割合で生まれます。私は現在、知的障がい者の入所支援施設で生活支援をしています。表情豊で個性的なダウン症の人達が大好きです、天使の笑顔に日々エネルギーをもらい、そんな職場が私のパワースポットです。

毎日楽しく豊かな生活を提供出来るように「ともに生きる心を育み ともに歩む社会の実現」を理念として日々頑張っています、勿論これからも関わり続いています。今回出会ったモンゴルのダウン症の方も私が現在支援している方も一緒です。言葉の壁、習慣の違いはありますが、今後情報交換出来る機会があったら出来る限り協力したいと思います。

2 年前モンゴルでお会いした **Ni** さんは少しスリムになられたのでは？切れの良いダンスと表現力センスが抜群 2 年前より腕上げたね。**Or** 君は甘えたにしか見えなかったけど今回は青年になりましたね、静かに微笑みながら友達を気にしている姿。大人になったんですね。甘えたは健在でしたね。初対面の二人、**Bo** さんは笑顔で挨拶。女性を感じました、ビーチサンダルより平和堂で買ったサンダル履きやすそうでしたね。空港で **Am** 君にいたずらされて泣いたけどすぐ仲直りできたね。**Am** 君は笑顔で人懐っこく、元気でやんちゃな男の子で **Uu** 君と遊んでるうちにお互いヒートアップした場面が何回かあったけど、50 個位散乱したボール片付け一人で最後の 1 個まで拾い笑顔でハイタッチ可愛かったですよ。保護者の方々も全員明るく楽しい。そして買い物大好き「これでもか」と最終空港でも出国直前まで買いまくりました。(まだ物足りない感じも)

フリータイムは楽しかった、特に (企画は多分 **Ni** さんかな) ファッションショーは最高！でした。そしてもっと沢山親子で交流したかったです。またきっと出来る気がします。関西空港での別れの笑顔は忘れません。

最後に **Kr** 先生のお言葉のように虹のかけ橋が架かり 小さな種をまいて、今芽が出て葉が付き始めました。これからしっかり根を張って美しい花を咲かせ実らすために、これからも少しでもお手伝い出来たらなあと思っています。

出会いと縁を結んで下さった **Ht** 先生ありがとうございました。参加者全員ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

モンゴル交流のお手伝い

Nn

お弁当の手配をしながら、まだ見ぬモンゴルの子どもやそのご家族のことを想像していました。実際に南郷公園にお弁当を届けて初めて出会った時は、思った以上に自然体で日本の風景にとけ込んでおられてびっくりしました。それは多分日本人スタッフの方々のウェルカムな気持ちが伝わっているのだなと思いました。フィンランド学校の夕食会でも和やかないい雰囲気、飛び入りにも関わらず居心地よく交流を楽しませてもらいました。貴重な体験、いろいろな方との出会いをありがとうございました。

モンゴルの家族

He

モンゴルの家族達がフィンランド学校に到着したのは、夜の？時過ぎ暗闇での対面でした。インチョン空港でのトラブル、J R 関空快速の事故での遅れと災難続き、意外と元気な到着でした。モンゴル家族は **Hi** 一家 3 人、**Ni** 母子 2 人、**Or** 親子 4 人、**Am** 母子 2 人、**Bo** 母子 2 人、**Ch** のお祖母ちゃんの計 14 人です。懐かしい顔も見られます。活発なのは **Ni** と **Am** とわんぱく坊主の **Uu**、**Ni** は女性でパラリンピックの元選手でダンスの名手、負けず嫌いな所があります。**Am** は時々奇声をあげて **Uu** と走り回っています。**Or** と **Bo** はおとなしく家族と行動を共にしています。**En** はすっかり娘らしくなりました。どの家族も親の子供を見る目は優しく、静かに見守り心温まる姿が見られました。今頃は日本で買った土産や、ビンゴで当たった景品を前に賑やかなひとときがモンゴルで広がっているでしょう。

日本での交流

Ht

今回の交流で最もメインにしたのは、海に接していない国のモンゴルの子供たちに水辺での体験をさせてあげたいという事でした。宿舍を大津市のフィンランド学校に決めてから、水辺での遊び、びわ湖青少年の家、滋賀県立琵琶湖こどもの国も含めてたくさん下見をしました。日本の子供たちが参加出来ない日があるゴールデンウィークを挟む日に交流会を設定したのも、水辺での遊びのためには、春休みはまだ寒く、夏は暑すぎるという事を考慮しての事でした。幸い、瀬田川リパーククルーズの日はお天気が良く、クルーズ船にのって瀬田川から広いびわ湖に出て、湖からの快い風を受けて景色を楽しんだり、行きかう船の人に手を振ったり、学校の練習船の競技を見たり、楽しい時間でした。午後の琵琶湖水産センターも大小いろんな魚が真近かに見られて素敵でした。プ

ールでは、まるで海水浴のように水をかけ合ったり、コースを横切って泳いだり、プールの決まりを無視しての楽しみでしたが、職員の方は遠くから来られた方だからと暖かく見守って下さいました。水に慣れない子供たちも時間の経過と共に上手になり、笑顔が出てきました。お母さん達にも浮き具を付けてあげるとよく泳がれて、「来た甲斐がある」と嬉しい気持ちでした。水に入るので保護者は必ずプールに来てほしいとお願いしましたが、子供だけで親は来られていない方もいらっしゃいました。けれど、モンゴルのお母さんたちは、我が子だけでなく皆に気を配って見て下さったので、その大きな心に感動しました。

プールは琵琶湖畔にあり、プールが終わってからも湖畔を散策したり、水辺を楽しむつもりでした。又、水族館がある梅小路公園には子供たちが水遊びを楽しめるせせらぎがあるので、それもしたいと思いました。けれども、お母さんたちのショッピングの希望はとても強く、残念ながらどちらも実現出来ませんでした。航空券に中途半端ではない大金を使って来日されたのだから、色んな事情があるかと諦めてショッピングに付き合いました。始めは服等を買われていましたが、終わりに近づくにつれて、ドラッグストアでの中途半端でない量のサプリメント等の買い物が多くなり、日本語の説明書の説明をするのに大忙しでした。

午後からゲストも来られて交流パーティ「再びこんにちは」をする日、モンゴルの人たちに昼食にポーズを作ってほしいとお願いしました。調理時間は 30 分で良いとの事、出来ないと困るので朝食後から作って早く出来たら冷蔵庫に入れておけばと言いましたが、出来たてでないと美味しくないと言われません。それでは少し早めにと 11 時から作ってもらう事にしました。12 時近くになっても出来る気配がないので聞くと、出来るのは 1 時半との事。「え？え？交流パーティは 2 時から始まるのに!」と文句を言う私に悟りきった表情の Ak さん。私も諦めてゲストを迎えに駅へ行きました。所が 2 時前に帰って来ても昼食はまだ始まっていなく、こうなったら私も出来るようにする以外にないという境地になりました。モンゴルではその日の天気や動物の体調等に合わせて全てをするので、早くから予定を立てる習慣はないというモンゴル時間を思い出しました。それ自体悪い事ではなく、いつも時間ぎりぎりの行動をしている私はそこから学ぶ事が多いですが、簡単に言う「異文化理解」の難しさを感じた次第です。

楽しかった滋賀キャンプ

Yy

涼しい風が吹き渡る田舎風景の美しいフィンランド学校でモンゴル人ご家族と過ごせてとても楽しく幸せな日々でした。障がい児を持つ親同士、国や言葉の違いを超えて寝食を共にし、モンゴルの親御さんの温かいまなざしや家族友人に対する愛情あふれる姿に心を打たれました。お互いに学び合えるものを共有して、両国の友情と交流を続けて行きたいと思っています。

今回のキャンプ開催に当たり、事前の準備や期間中の昼夜を問わずの食事作り、片付け、スケジュールチェックと心を尽くして下さい運営の先輩方に深く感謝申し上げます。

モンゴルの責任者の Hi さんが言っていました。滞在中のある夜、寝がけに息子の Uu 君が「僕凄く幸せだ…」と言ったそうです。モンゴルで一度もそんな言葉を聞いたことが無い、とても驚いたと。また娘の En が日本到着後、日増しに表情が明るくなったと。この Hi さんの話が、今回のキャンプへの最高の褒め言葉だなと思いました。

「また行きたい国」に日本はならねば、と思います。

「また会いたい人達」に我々はならねば、と思います。

モンゴルキャンプ感想

Ynk (中学 2 年生)

お世話になった人たちのおかげで楽しい時間を家族とともに過ごすことができました。本当にありがとうございます。

以前会った時よりも、皆さんとより深く関わる事が出来、大変嬉しかったです。前の交流の時、僕は小学校 6 年生で、人と話す事にためらいを感じていました。そのため、モンゴルの人たちとはおろか、日本の人達とも満足に会話をする事が出来ず、今考えると凄く損をしたと思います。それから月日が経って、中学校に入学した事で、それまでより多くの人々と関わる機会に恵まれるようになり、それに伴って、人と話す自信を、徐々につけていく事が出来ました。そのため今回の合宿では、前回よりもとても多く人と話したり、関わるという事が出来、とても有意義で楽しく、素晴らしい時間を過ごせました。今回の合宿を経て思った事は、もっと多く、もっと深く、何回も交流する必要があるという事です。友達と付き合うには、相手の事を知っていなければなりません。又、一回や二回の交流で、相手の事を知ったとは言えません。これから、何十年経っても、繰り返し繰り返し会い、もっと深く、もっと多く相手の事を学んでいけば、いずれはお互いの事を知る事が出来るのだと思います。その続いていく交流の創めに、参加出来た事を、死ぬまで嬉しく思います。

日本での交流の意義

Yn

2 年前にモンゴルでキャンプをして知りあった人にまた会える。こんな楽しみな事はありませんでした。2016 年モンゴルに行く前は、何となくその体験を楽しみ、ただたくさんの思い出の一つとなって、現地の人達には二度と会うこともないのだろうな…と想像していました。ところがその後も交流はインターネット上で毎日のように続き、時には日本に來ているあちらの家族のお手伝いをしたりして、まるで昔からの友人と同じような親しい存在となっていました。特にモンゴル側の責任者の Hi さんとは、育児の悩み、仕事の悩みなど相談しあい、国の違いを感じないほどに親密な関係を築くようになりました。

今回そういった事情もあり、滋賀でのキャンプに先んじて Hi さんが二人の子供を連れて我が家に 3 日間のホームステイをする事になりました。とは言っても、我が家は狭くまた寝具も十分でなかったのも、みんなで私の実家へ寝泊まりすることにしました。こうして 4 月 29 日、2 年ぶりに待ち合わせの駅で 3 人と会いましたが、一瞬にして時は戻り、小さいほうの息子は Hi さんと娘の En に飛びつき、上の息子と Hi さんの息子 Uu 君はまた兄弟

のように楽しくじゃれ合い始めました。うちでのホームステイ中は、後の滋賀キャンプで沢山お手伝いしてもらう為にも、とにかく目一杯楽しんでもらう事にしようと思っていました。2日、3日では足りないくらいに連れて行きたいところはたくさんあったのですが、夫がモンゴルにはない海を見せたいと言ったので、天保山でクルーズ船に乗ったりレゴランドに行ったりしました。En は海が気に入り、それまで片言の日本語で「楽しい」「好きです」と話していたのが、「‘本当に’ 楽しい」「‘すごく’ 好きです」などの修飾語が増え、ほんの数日でみるみる感情が豊かになって行くのを感じました。翌日はお互いの家族全員で葛城山頂にピクニックに行きのんびり過ごしました。初めて乗るロープウェイにワクワク、緑あふれる山道をのんびり歩き、頂上の絶景を見ながらお弁当を食べました。大人たちは気持ちの良い風を受けてリラックスし、子供たちは大喜びで駆け回っていました。帰宅後、家では私の母と姉が大切な振袖を Hi さんの長女 En に着せてくれ、普段大人しく控えめな彼女が輝かんばかりの明るい笑顔になった事が家族一同本当に嬉しかったです。着せてもらった後は、着物の畳み方も教えてもらい、しっかりと文化交流も果たしました。夜は一緒に刺身で晩酌をしたり、子供も大人もみんな大はしゃぎでトランプしたりと、とても楽しい日々でした。

Hi さんたちは1日別のメンバーの家庭に泊まった後5月3日再び関空での出迎えで合流。

この日は飛行機の遅延、電車の事故などいろいろとハプニングがあり、昼過ぎに到着予定のはずが、結局フィンランド学校到着が日付の変わるギリギリになったりもしましたが、スムーズに事が運ぶよりも、乗り越える事が多い方がむしろ印象深い旅になったのではないかと思います。

滋賀での合宿所であるフィンランド学校は田舎のはずれ、1棟貸しの大変便利な施設でした。今回も家族連れに配慮していただき、他の方は皆さんで一部屋に泊まっていらっしゃると知って、何と優しいお気遣いかと感謝でいっぱいでした。おかげさまで毎日本当に楽しく子供たちもののびのびと過ごさせていただきました。

今回は日本側がおもてなしするという事で、日本のメンバーの役割が一人ひとりはっきりしており、皆さんキビキビと仕事をこなされておりました。これほどの心からのおもてなしは必ず相手に伝わっているに違いないと確信いたしました。

そして、こちら側に前回にはなかった葛藤、文化ギャップからくる戸惑いなどが感じられ、それが後半に向けてどんどん解消されていく様子は本当に素晴らしかったです。

個人的に思う、これぞ文化交流！という気がして、心の中で拍手したい気持ちでした。今回の交流で、私の中で特に途中から意識し始めた目的としては「楽しんで帰ってもらう」、「日本を好きになってもらう」という事があります。まだ余り日本とモンゴルの交流がポピュラーではない現在、私たちが最初の窓口となる事、今後のモンゴルの人達の日本への感情に少なからず影響を与えていくかもしれない、そんな責任感を感じ臨んでいました。ですが、ただお客様として扱う、扱われるのではただの旅行と変わりなくなってしまう。交流と

いうからには一方的な支援ではなく、お互いに刺激を与えあう存在でなくてはならない。お互いに特別な国で有り続けたいと思う気持ちは、そんな小さな摩擦や葛藤の繰り返しの先にあるのではないかと思います。

モンゴルの母親たちのおおらかさ、やさしさ 父親の心の強さ、勤勉さ。どの親も前向きで、少しの不安を明るく吹き飛ばし、未来と希望が沢山溢れていました。それは障がい児を育てる場合には特に必要な気質です。

現在、モンゴルには韓国の世宗特別区を参考に、ウランバートルに集中し過ぎた都市機能を分散させるための特別区が設定され、そこに総合的な障がい者施設が発足しています。しかし、親の会さえ最近出来たばかり、全くの0からのスタートで有り、一から参考にするべきものとして日本の進んだ障がい者福祉の内容を知りたいとの事でした。

(個人的な事なのですが、私の貧しい英語力で説明しきれなかったことが沢山あり、その事が大変心残りになったので、キャンプが終わってから真面目に一から英語の勉強を始めました。ほんの少しでもモンゴルの今後の役に立ちたいと思っています。)

障がい児を生んで、私が一番に思った事は自分が死んだ後のことです。自分が死んだあと、誰かの手を借りないと生きていけないこの子は、どうやって生き抜いていくのだろうか。それを見届ける事が出来ない不安。全てから守ってやれるなら子供に先に逝って欲しい。そんな事さえ考えます。普通の親なら子供にいつまでも長生きしてほしいと願うでしょう。そんな当たり前のことさえ障がい児の親には難しいのです。

キャンプに参加されたモンゴルダウン症協会の会長 Ga さんの我が子や周りの子供たちの為に福祉を発展させたいという情熱は、同じ心配から来ているのをひしひしと感じました。親のないあと、この子が辛く悲しくみじめな思いをしないで済むような、安心して自分が先に死ぬるような、そんな環境を作りたい。究極にはそれが全世界の障がい児の親の望みかも知れません。モンゴルの親たちは、今その希望を叶える為に必死に頑張っています。

今回もキャンプを通して、自分、家族にたくさんの影響や変化がありました。毎回この貴重な機会を与えて下さっている皆様、実際にサポートして下さる皆様に、心から感謝しております。

これからも末永くモンゴルとの交流がいろいろな場所で芽吹き、発展し、続いて行くように祈っております。

エプロンスタッフから

Wa

今回は生憎、私事の行事と日程が重なり、最初と最後が抜けてミニマムの参加となりました。事前に Ht さんから届く沢山の資料を読み切る事さえ出来ず当日を迎えざるを得ませんでした。スタッフの皆様の準備段階からの様々の陰のご努力に感謝しています。

モンゴルへも行きませんでしたから、Hi さん以外には顔見知りもなく、言葉も通じず何とも心もとない気持ちでした。

S さんのお陰で仕入れて頂いた沢山の野菜と果物に囲まれてキッチンで日々を送りまし

た。それはそれでキッチンスタッフとのたいへん有意義な時間でした。特に Yy シェフのイタリア料理、数日前からの下拵えをはじめ、そばで見せて頂いたのは何よりでした。あのパプリカ料理はさっそく作り、来客に喜ばれました。美味しかったです。

モンゴルのお母さんたちの餃子(?)は、前日合挽ミンチ 4 kgの買い物を担当して、本当にこんなに沢山必要なのだろうか?と内心不安でしたが、流石に肉食の国、心配は杞憂、逆に皮が余る始末でした。食べ応え充分でした。言葉は通じませんが、一緒に餃子の肉を包んでみて、流石に本場、美しいバラのような形をはじめ、お母さんたちの指先からいくつもの包み方が生まれていくのを目近かで見られました。手に取って教えて頂きましたが、不器用な私は上手に出来ず、それがまた笑いの種になって楽しかったです。

毎朝の S さんのパンに A 家のジャムを頂きながら、サーバスの美味を味わいました。キッチン担当で食べ物の事ばかりになりました。

Ht さんの恩師・Kr 先生がご高齢を押してご参加下さり、Ht さんの原点に触れ得ました。

7日の夜、皆さんより二日早くお別れの挨拶をして帰宅しかけると、次々とお土産を手にしてハグとキス! 言葉は通じなかったけれど暖かい心がしっかりと繋がり、胸を熱くしてハンドドルを握りました。

追1) Km さん Kn さんとはほかの繋がりがある事がわかり What a small world!でした。

2) また先年 Hi さんたちと見学、大歓待を受けた京都岡崎のあおい苑創始者 Hk さんが今年1月2日に95歳直前で亡くられました。あの涙ぐみでの笑顔で今回の交流を空から見ている下さったと思います。



結びに変えて

日本モンゴル障がい児交流会代表

日本サーバス近畿支部長 Ht

モンゴルの方を日本に招いて行った今回の交流も無事に終わりほっとしています。日本サーバスが主催して行った 2015 年実施のモンゴルの方たちの障がい児教育研修で、子供たちに良き未来を作っていくためには、モンゴルと日本の障がい児・者家族が強く繋がり合い、励まし合っていく事がとても大切だと思いました。その後の障がい児・者家族が参加して行うモンゴルとの取り組みはそれを大きな目的としていました。今回の交流で、その願いが大きく実を結んでいることがわかり、非常に嬉しいです。固く結ばれた両国の障がい児・者家族の方たちは、これからも結びつきを強め、協力しあって子供たちの良き未来を作って行っ下さると思います。今後について、モンゴルから色んな希望が出されています。それをどのようにして実現していくのか、交流に関わった皆で話し合い、良き方向を見つけないしたいと思います。ご支援して下さっている皆様には、日本モンゴル障がい児交流会の機関紙「絆」にて、私たちの想いをお伝えしていく所存です。

今回も支援金をお寄せ下さった方 40 名を始め、計画や実施面、資金面で非常に多くのお力添えがあり実施出来ました事、心からお礼申し上げます。

どうか今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

2018 交流会参加者

モンゴル 14 名 ゲスト 4 名 日本人 2016 キャンプ参加者 8 名 日本サーバス会員 8 名
日本サーバス会員で 2016 キャンプ参加者 5 名

「再びこんにちは」には上記の他に大阪 LD 親の会「おたふく会」より 5 名来て頂きました。

報告書に載せている絵は、2016 年夏滋賀県三井寺で行われた「平和を願う子供たちの作品展」に出品して下さったモンゴルの子供たちの作品です。交流会の時会場にも展示しました。





発行	日本モンゴル障がい児交流会 日本サーバス近畿支部
編集	日本モンゴル障がい児交流会 日本サーバス近畿支部
発行日	2018年6月吉日